

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校 定時制課程
-----	--------------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	・今年度の目標に対して、すべての項目で十分達成できたと考えられる。 ・多様な生徒に対する教科指導・生徒支援両面での対応は今後も重みを増すもの考えられるため、今後もー
------------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○中部地区の定時制高校として、これからのビジネスに必要な知識と技術の取得を通じ、地域社会に貢献できる人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	・学習指導、学校行事や部活動を通して、真の学力を育成する ・生徒の主体性を高め想像力を育成する教育活動 ・企業や大学、地域と共働し、外部資源を活用した教育活動の充実を図る
	○自分の将来の進路を真剣に考え、意欲的に学習に取り組むことができる生徒 ○「働きながら学ぶ」という定時制の生徒としての自覚を持ち、しっかりとした職業観を身につけようという意思のある生徒 ○豊かな心を持ち、他者への思いやりがあり、他者と協働することができるなど、社会で生活するための能力をさらに伸ばそうとする姿勢の生徒	社会人として活躍する力を身につけ、望ましい職業観や勤労観を育成する教育を行うために、就職系列、進学系列、教養系列の3つの系列で複数の選択科目を設定しています。それぞれの進路希望に応じた科目を選択できるようにし、生徒が進路実現に向け主体的に学ぶことができる教育を行います。	○授業等を通して、知識・技能の習得を目指します。 ○課題解決のための実践的な学習を通して、課題対応力を身につけます。 ○教育活動を通して、他者と協働する中で、協働性を身につけます。 ○情報モラル教育等を通して、規範意識とモラル・マナーを身につけます。 ○多様性・多文化理解を通して、共生力を身につけます。 ○学習活動や各種検定取得への挑戦を通して、主体性と自己肯定感を身につけます。		

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上	○学びの基礎診断テストの平均GTZ(学習到達ゾーン)が、昨年度より向上した生徒の割合を50%以上とする。	・9月を学力強化月間とし、国語・数学・英語の主要3教科を重点的に指導する。		・		・		・	
	○主体的で対話的な深い学びの探究	○主体的で対話的な深い学びとなる授業改善を行い、「調査研究やプレゼンテーション、話し合いなどを通して学習への意欲が高まった」と答えた生徒を60%以上とする。	・シラバスの見直しや改善、ICTの利活用を通して、生徒が主体的にかつ深い学びができるような授業改善に取り組む。							
	○自己実現のために検定取得の推奨	○検定取得に対する意欲を高め、受験者の合格率を前年度よりも向上させる。 ○学ぶ楽しさを見つけ、生涯学習の意義を理解する。	・科目指導の中で経済の仕組みや情報社会のしくみについて理解させ、個に応じて検定合格のための支援を行う。							
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者を思いやることの大切さに気づく生徒の割合を80%以上とする。	・スクールカウンセラーによる心の授業や、各種講演会を通して、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・性に関する講演を実施する。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員の割合が90%以上とする。	いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行い、いじめの対応についての研修・会議(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)を年間に2回以上行う。		・		・		・	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を90%以上とする。	・ホームルーム活動等で給食を題材とした指導や食育講話を実施する。 ・「食育だより」「保健だより」、掲示板や電子黒板を活用し情報提供する。 ・担任と連携し、生徒の食習慣や生活習慣を把握する。 ・学校医、保護者、関係機関と連携し、健康教育や保健指導を実施する。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務のICT化を一段と進め、効率化、ペーパーレス化を促進する。 ・休暇についての正確な情報を職員に提供し、適切な休暇を取得できるよう指導する。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	●教職員の専門性の向上と共通理解の深化	●情報交換会等や研修会の内容を個々の生徒への対応に生かすことができたと感じる職員を80%以上とする。 ●教育相談担当者会を月2回以上実施する。	・毎月の生徒情報交換会を充実させる。 ・教育相談担当者会での情報交換及び共有を充実させる。 ・生徒が職員に相談しやすい雰囲気づくりを心がける。 ・職員研修で専門性の向上を図る。		・		・		・	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○キャリア教育	○キャリア教育の充実	○年度内に卒業予定者全員の進学先及び就職先を決定する。 ○自己実現に向けた進路意識醸成の一助として、卒業生等の講演会や説明会を2回以上開催する。 ○就職希望者は100%正社員としての就職内定を目指す。	・担任、生徒及び保護者との情報共有を密に行い、生徒個々人の進路目標に即した情報収集と情報提供を行う。 ・本校卒業生や学校関係者、ハローワーク等と連携し、生徒が身近に実感できる講演、説明会を実施する。		・		・		・	
★唯一無二の誇り高き学校作り	★修学旅行プロジェクトⅠ・Ⅱの実施	★事後アンケートにおいて生徒の満足度を80%以上とする。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上にする。 ○学校見学者を10名以上にする。	・生徒自身が行き先や日程等について調査、研究し、企画案を作成する。 ・修学旅行プランについてのプレゼンテーションを実施し、行き先を決定する。 ・修学旅行報告会を実施する。 ・HP等による広報活動を積極的に行う。		・		・		・	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望 (簡潔に)	・ ・ ・
--------------------------	-------------